

第 11 回 新県民体育館整備等基本計画検討会 議事録

日 時：令和 8 年 6 月 10 日(水)10:00～11:30

場 所：高知会館 2階「白鳳」

出 席：委員 11 名中 11 名出席 ※中嶋アドバイザー、山花アドバイザー出席

出席委員：石塚委員、神谷委員、刈谷委員、寛藤委員、北村委員、坂本委員、田中委員、
玉乃井委員、久川委員、古谷委員、森委員

議 事：(1) パブリックコメント（最終報告）

(2) 基本計画（案）

1 開 会

<委員長挨拶>

・パブリックコメント結果をとりまとめた最終報告と基本計画案の最終案の説明があると思う。最後の検討会になるので、皆様からご意見をいただきたいと思う。

2 議 事

【議事（1）】

<森委員>

・賛否両論という表現がいいのか分からないが、例えば規模にしても、大きくすべきという意見と小さくすべきという意見がある。地下駐車場に関しても、駐車場が足りないのではないかという意見とリスクを気にする意見があるということで、これまでずっと我々が議論してきた両方の意見が出てきていると思う。その中で教育的配慮について、土のグラウンドから人工芝に変わることによって良さや利便性が上がるという思いで、当初から意見を出してきたが、まだあまり認知がされていないことが残念。そういう部分を理解していただけたらと思う部分がたくさんある。教育的配慮は現行の方法で良いと思うが、しっかりと情報が広がって、理解をされると良いなと思う。

<田中委員>

・この検討会は途中から参加させていただいているが、その手前から、イベントの企画運営というところで、高知県とは様々な意見交換もしてきて、イベントを実施する立場の者としては、非常に良い形で進んでいるのではないかと考えている。特に、立地に対する意見も数々あるが、この中心地に置くことで、公共交通や中心商店街との連携を図りながら、高知県経済を拡大させていく起爆剤にもなりうるかと思うし、また一方で、施設が完成した後も我々イベント会社も経済団体と連携して、経済を発展させていくための使い方を継続して考えていきたいと考えている。

・駐車場のことについても様々な意見がある中で、近隣駐車場を上手に活用しながら、

最低限運営者側で使用するのに必要な駐車場の台数というのは確保されているのではないかと考える。

<古谷委員>

・様々なご意見があるのは、この検討会に参加していて感じる。検討会の中でも様々な議論をして今日を迎えているが、一般の方が疑問に思うことや懸念することが様々な視点から出てきている。意見を出されたそれぞれの方がすべてのことに疑問や懸念を持っているわけではなく、その中の一つや二つのことに対して問題に思っていると思うが、その疑問などを払拭するためには、丁寧な説明が必要になると思う。その一つ一つの疑問、懸念に対して説明する担当がいれば、そうした疑問などは払拭されると思う。ただ、その担当者の答えが人によって異なると困るので、統一した見解を示してもらえるようにしていただきたい。

<坂本委員>

・60 数万人の高知県の人口のうち 100 人ちょっとからの意見というところで、重要な点はこうしたところに意見が出てこないサイレント層の方々に、いかに興味を持ってもらうかということだと思う。特に、関心がないという方々に、今後よりよい形で関心を持ってもらうためには、先ほど古谷委員がおっしゃった情報公開や丁寧な説明が重要になってくると思う。場合によっては、サイレント層の方がちょっと違うんじゃないかというふうに反対の立場になるケースもあるし、何かもやもやと思っていた人が、意外といいんじゃないかと賛成の立場になるパターンもあるだろうから、大多数を占めるそうした方々を大事にして、丁寧な説明と進捗の報告をすることでより良いものができるのではないかと思う。

・県の考え方に関しては、色々なご意見があるが、県はこう考えてますということだけで終わるのではなくて、今後の検討課題としてこういったものを考えていきますということを示す。例えば、駐車場について県はこう考えてますだけではなくて、きちんとフォローがされているかと思うので、そうした今後の課題を、今後の課題だけで終わらせるのではなく、どういうふうにすれば実現ができるかということ、設計の段階で検討を進めていただければと思う。

【議事（2）】

<北村委員>

・基本計画案の中にプールをインクルーシブなプールにという文言もあるが、家族更衣室など防災の面でも必要な機能と考えられる。そうしたハード面の整備について、可能な範囲になるかとは思いますが、様々な方が利用できるような整備をしていただきたい。また、整備するにあたっては、例えば点字ブロックについて、デザイン性を重視して、シ

ルバーやグレーといった地面の色とのコントラストのないものが多く作られている。同じ費用をかけるのであれば、実際使われる方がより使いやすいものになるよう、専門家や当事者団体の方に相談するなど配慮をお願いしたい。

・障害者スポーツセンターのプールを集約するという流れの中で、運用に関しては、我々も仲間に入れていただいて、障害のある方がより前向きに活動ができるよう、一緒に施設を作り上げていく方向に持って行っていただければありがたい。

<神谷委員>

・昨年度本市から教育的配慮など様々な論点提起をさせていただいた中で、検討会の方で受け止め、丁寧な議論をしていただいた。基本計画案には概ね本市の要望した内容を反映いただけた。今後基本計画がとりまとめれば、基本設計、実施設計、工事、そして運用というふうに進んでいくと思うが、それぞれの段階で、この基本計画で確認されたことがしっかり反映されることが大事であり、また、現在確認されていない新しい課題がその都度出てくると思うので、それらにしっかり対応をしていくことも重要である。そのために、県には、引き続き本市との継続した協議をお願いしたい。

・具体的には、まず、教育研究所や学びの多様化学校に通う不登校の子どもたちと、青年センターに通う青少年に対する教育的配慮が大きな論点になると思う。今後本市教育委員会と協議を進めていくことにしているが、施設を利用している子どもたちや青少年の様々な意見を聞いていただき、設計や運用方法に反映できるよう、引き続き利用者に寄り添った検討をお願いしたい。

・新県民体育館は社会体育施設として、県民スポーツの振興に資する施設となって欲しいが、工事期間中の代替施設については、高知市の施設も対象になってくると思うので、県に話を伺いながら高知市として何ができるかを検討していきたい。

・その他にも市が関係する様々な論点があり、例えば、住宅地が隣接する場所になるため、渋滞や騒音の対策など近隣の住環境をどのように確保していくか。防災に関しては、「指定緊急避難場所」と「指定避難所」の指定を見据えているため、それを前提として防災機能のあり方がどうあるべきか。また、地域活性化やまちづくりの観点など、引き続き議論をさせていただきたい。本施設が県民の日常的な利用による県民スポーツの場として、またプロスポーツやコンサートといった新たな体験を県民に提供する場として、県民に長く愛される施設となることを願っており、市としても今後もしっかり関わっていきたい。

<刈谷委員>

・今の県民体育館にはステージがあるが、新県民体育館は新たにアリーナ機能を有することからおそらくステージは無くなるのではないかと思う。そうなると、設計の段階でそれぞれの競技ごとにどのようにコートが配置できるかが見えてくると思うが、真ん中

にメインコートを設置した場合、大会の本部をどこに配置するかということも設計の段階から検討していただきたい。というのも、真ん中のメインコートの両サイドが使用できるかどうか、エンドラインがどの程度空白があるのかが変わってくるので、各競技の特性も踏まえてコートの配置の仕方を検討して欲しい。

・メインアリーナの床は土間コンクリートのため、スポーツをする際はフローリングを敷くことになると思うが、フローリングに各コートのポイントを打てるかどうかも検討して欲しい。もし試合ごとにポイントを打たないといけないとなると各競技団体が大変になる。大会の参加人数などによって数も変わってくるため、運営側が大変になる。プロスポーツになるとセンターコートの真横に「ジュリー」と呼ばれる競技責任者の方がいる。そういった方のポジションも必要になるため、しっかり確認を取っていただきたい。

<久川委員>

・基本計画を県民の皆さんに周知する際に、もう少しわかりやすい言葉で作ってもらえると嬉しい。横文字系をできるだけなくすとか、MICE や PFI に関する文言など、普段から関わっている方は分かるかもしれないが、そうした部分をわかりやすい言葉で説明ができると丁寧な説明になるのかと思う。利用者の方々に受益者負担を求める立場にどうしてもなるので、その時に公共の貸館メインの施設を運営している私自身のポジションから考えると、納得できる説明ができるものが必要なるだろうと思う。

・今後、設計段階に入る時に、先ほど副委員長がおっしゃったように、各競技団体であったり、コンサート等を行う団体であったり、MICE もしくはコンベンションを開催する団体から広く意見を求めて、必要な設備を設置することのできる建物を求める。パブリックコメントの意見にあった音響・照明がどうだとかいうのは全然後の話になる。コンサートをするための機材が設置できる強度や防音対策、電源の装置といったところをクリアできるハード整備が必要と考える。

<玉乃井委員>

・コンサートやプロスポーツ、学会などの全国大会を誘致するにあたり、控え室や天井高、搬入動線などを重視し、使う側も使いやすい施設にして欲しい。

<寛藤委員>

・当初は新しい武道館ができるということで期待をしていたが、狭い敷地内にすべての機能を入れるということで、武道館というよりは武道場に近い形になりそう。

・教育施設との関わり、津波対策に関すること、興行面における収益のこと、街の賑わいづくりなど勉強になったが、武道の立場としては今の武道館の方が使い勝手が良いの

ではないかという印象。武道館という名前を付けるのであれば、せめてそれらしい外観にするなどの配慮をいただけたら。試合場だけでなく、必要な諸室や動線など理解していただけているとは思いますが、利便性が高くなるようにして欲しい。剣道では、西日本勤労者剣道大会などの大きな大会も開催されている。武道館だけでは開催は難しいので、武道館を練習場としてサブアリーナで試合をするというようなことになると思うので、そのようなことも理解して整備して欲しい。

<中嶋アドバイザー>

- ・どの事業手法にも一長一短があるので、丁寧に検討された結果だと思う。今後の留意点等については、基本計画にも記載はあるが3点申し上げる。
- ・1点目は、従来方式は設計、建設、運営が分離をしているため、手戻りによる遅延が最大のリスクである。コメントにあるとおり、県の方で建設側や運営側の意見を吸い上げて、しっかり事業全体をマネジメントしていただくことが重要。
- ・2点目については、どの事業手法を採用してもだが、物価上昇による入札不調が大変多い。コメントにあるとおり、丁寧こまめに、民間事業者の動向を把握しながら入札を進めて行く必要がある。
- ・3点目については、事業費については、どうしても現在の想定よりも上がる可能性が高い。上がったことに驚いて再検討して足踏みをしていると、その時点でさらに上がってしまうということが最近見られるので、すでにパブリックコメントの回答でも触れられているが、あらかじめ県民や議会に、事業費は上昇しうるため今の事業費は参考の数字だという認識を理解いただけると理想的だと思う。

<山花アドバイザー>

・前回お話しさせてもらったことも非常にたくさん盛り込んでいただいております、ゆくゆくチームができれば、十分に使えるようなアリーナの設計になっているのかなと思う。ただアマチュアスポーツとプロスポーツが混在するような建物になるため、そこはやはり、さらに検討するところが多々あるのかなというふうには感じている。ただ、全国的にまだこのような様々な施設を全体的に施工するという建物がないと思うので、ぜひとも成功させていただいて、1つの良い建物の例としていただけたらなと感じているので、また何かできる機会があれば意見等もさせていただきたいと思う。

<森委員>

・今後基本計画を表に出していき、意見も聞きながら詳細を詰めていくと思うが、原点の議論に戻ることがないようにして欲しい。県民体育館の老朽化問題で建て直すかどうかの議論の中で、今までに無かったコンサートやイベントができる施設、将来的にプロスポーツを引っ張ってこれる施設として5,000席以上の施設を整備しようという非常

に良い要素を取り込んだ夢のある施設になっているはずなのに、議論をしている中で、あれもこれも機能をひっつけられてというやらされ感があったが、そうではなくてむしろそのような機能を積極的に集約化して、高知市の中心地でコンパクトに様々な機能が詰まった施設ができて楽しめるというように、前向きに情報発信をしていけば良いと思う。

<石塚委員長>

- ・社会体育施設としての本来の機能にアリーナ機能を融合させるということで、これまで実現できなかったことが実現できるという夢や希望のある施設であり、人口減少下においてどのような施設のあり方が良いのかチャレンジングな施設でもある。
- ・機能の詰め込みすぎという意見は確かにあるが、設計を組んだときに運用面や動線が実際には難しいとなったときには、今回採用した従来方式であれば修正が可能だと思うので、基本設計を進めるにあたっては、丁寧な県民への説明と関係者へのヒアリングに基づいて進めていくことが求められる。

<古谷委員>

- ・県民の中には高いお金を使ってこのような施設を作ってという意見もあるが、30年間で試算以上の経済波及効果が生まれると思う。人口減少下において、機能を集約してこの程度の施設ができて、これだけの経済波及効果が生まれるということは非常に夢のある計画だと思う。県民の皆さんにこれだけのお金を使ってもこれだけの経済波及効果があるということを理解していただければ納得してもらえる計画だと思う。

<事務局>

- ・本検討会の発足以来、約1年にわたり、それぞれのお立場や専門的な見地から熱心にご議論いただいたことに、改めて心から感謝申し上げます。新県民体育館は、老朽化した現在の県民体育館の単なる建て替えにとどまらず、社会体育施設の機能に加え、これまでできなかった全国規模の競技大会やプロスポーツ、音楽コンサートなどの楽しいイベントも開催できるアリーナ機能を融合させていくということで意見をまとめていただけました。また、南海トラフ地震をはじめとする大規模災害に備えた地域防災の拠点となる施設としての役割も担うこととしている。今後も関係者に意見を聞きながら設計を進めていく。
- ・本検討会においては、施設規模や機能、事業手法、防災対策、まちづくりとの連携など、多岐にわたるテーマについて活発なご議論をいただいた。また、アンケートやパブリックコメントを通じて県民の皆さんからいただいたご意見とともに、委員の皆さんからいただいたご助言やご提案は、基本計画の大きな支えとなり、本県が目指すべき新県民体育館のグランドデザインを示すことができたのではないかと考えている。

- ・本日、基本計画案を確認いただいたので、今後は、県庁内において、基本計画の策定を行う。あわせて、測量などの各種調査や基本設計、実施設計といった関連予算の確保に向けて準備を進めていく。

- ・本計画で掲げた理念や方向性を着実に実現できるよう、県民への丁寧で分かりやすい説明、使いやすい施設となるよう関係者の皆さんから意見を聞いて協議をしていくという姿勢で事業を進めていく。本検討会は今回をもって一区切りとさせていただくが、委員の皆さんには、今後もそれぞれの立場から新県民体育館整備について、ご指導とご助言をいただきたい。

3 閉会